

平成28年8月27日(土)

中日新聞(朝) 2 | 面

自然科学研究 助成13件決定

大幸財団

名古屋市東区の大幸財団(加藤延夫理事長)は二十六日、自然科学系の学術研究助成対象に十三件を選び、総額四千七百六十万円を贈ることを決めた。五十一件の申し込みの中から選考した。助成を受ける研究は次の通り。

有害重金属カドミウムによる慢性腎障害に有用な生体予防因子の同定(李辰竜・愛知学院大薬学部講師)

▽重力波天体ブラックホールを電磁波観測で検証するための理論研究(高橋真聡・愛知教育大教授)▽抗中皮腫治療薬の探索と解析(佐藤龍洋・愛知県がんセンター主任研究員)▽新興・再興薬剤耐性菌が産生するメタロβ-ラクタマーゼ活性中心部位変異による反応場の改変と阻害剤・検出剤の設計と合成(黒崎博雅・金城学院大薬学部教授)▽脊椎動物四肢リズム運動形成機構の根源的理解へ向けた研究(東島真一・自然科学研究機構基礎生物学研究所教授)▽異種酸性官能基複合型主分子触媒の創製と精密合成反応の開発(榎山儀恵・自然科学研究機構分子科学研究所准教授)▽計算機に絵を用いた話を描かせるための創作過程のモデル化(上野未貴・豊橋技術科学大助教)

▽マクロファージによる血液網膜門の破壊機構の解明(植村明嘉・名古屋市立大医学研究科教授)▽水素結合を利用した革新的磁性物質の開発(藤田渉・名古屋市立大システム自然科学研究科教授)▽ヒトiPS細胞由来腸管上皮細胞を用いた医薬品の新規消化管吸収予測モデル系の構築(岩尾岳洋・名古屋市立大薬学研究科准教授)▽急性ストレスによる精神疾患関連糖鎖ポリシアル酸の脳領域特異的变化とその意義の解明(佐藤ちひろ・名古屋大生体機能開発利用研究センター准教授)▽モンゴルの湖沼堆積物から探るアジア内陸の気候変動と太陽活動、文明盛衰の関係性(長谷川精・名古屋大博物館特任准教授)▽負荷の応答特性を考慮した新しい日本型CVRの開発(益田泰輔・名城大理工学部准教授)